

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799200031		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター鶴見今津(マンゴ)		
所在地	大阪府大阪市鶴見区今津南1-6-8		
自己評価作成日	平成23年2月9日	評価結果市町村受理日	平成23年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2799200031&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2799200031&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成23年3月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気、なじみの関係を築きながら、一人ひとりのペースに合わせてゆったり寛いで頂けるようなホーム作りを目指しております。お誕生日会や音楽会、豆まきやクリスマス会等、行事を楽しんで頂けるよう企画しております。お食事はスタッフの手作りで、出来立てのものをすぐに召し上がって頂きます。定期的に、テラスにてバーベキューをしたり、すき焼き鍋やオードブルにて会食会をしたり、昼食のイベントがあり喜ばれています。秋にはお庭で育てたサツマイモの収穫をして、おやつに焼き芋をしました。また地域のボランティアの方の大正琴やギター演奏も楽しんでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関やホーム内の廊下の壁面には、来訪した家族が日ごろの利用者の様子を写真を通して見れるよう、各種行事時の写真が職員手作りの画用紙にレイアウトされ、ほっとする和みの空間となっています。職員は来訪した家族と写真を通してコミュニケーションを図り、家族の思いを引き出せるよう努力しています。また、利用者が過ごすスペースには、季節の花がさりげなく生けられ、今日の日付が解るような配慮がなされ、リビング以外にも椅子が置かれており、思い思いの場所でその人らしく過ごして頂けるような工夫と配慮がなされています。また、地域の中での役割が少しずつ根付きはじめ、職員で掲げた理念を大切に、日々自立支援を心がけたケアを提供できるよう心がけています。医療については、提携医以外にも診療科目が多く、往診に対応してもらい安心した体制となっています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社は「誠意・誇り・情熱」の他、法人のマナーアップとしての7つの心得、事業所の目標が掲げられている。	「私たちは、地域に根付いたホームを目指し、向上心を持ってサービスの質を追求します」という職員間で話し合い作成されたホーム独自の理念を玄関に掲示しています。その理念にそうよう、地域の中での役割や利用者に対するサービスについて話し合いながら行事などを通して理念の実践が出来るように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているため、定期的に回覧板にて、地域の情報を得る等し、交流をはかっている。地域の防災訓練に参加している。	町内会に加入し、地域の防災訓練に参加したり、福祉会館での催しに職員がギター演奏に参加したり、行事を通してホームを知っていただく事を目的とし行っています。朝食のパンは近所のパン屋さんから購入したり、散歩途中の挨拶など、近所つき合いを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回ホーム会議を開き、話し合いの場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域ネットワーク委員会・地域包括支援センター職員・管理者が参加する運営推進会議が2ヶ月に1回開催されている。ホームの活動状況の報告や参加者からの要望・助言を得る機会としている。	2か月に1回、開催される運営推進会議では、出席者から意見をいただき、地域の行事を紹介してもらったり、ボランティアの案内をもらい、利用者の楽しみ事につながっています。会議の結果については、いつでも閲覧できるようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時は連絡をとって対応している。	介護保険の認定更新時の申請代行や退居時、また、介護保険制度のことなどを情報をいただいています。	事業所が取り組んでいることや、今後取り組みたい課題なども積極的に伝え、協力関係を築くことが期待されません。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームに「身体拘束委員会」を配置し、月1回話し合いをしている。	各ユニットに1名身体拘束委員会の担当を配置しています。現在3名の方に対し家族の同意のもとベッド柵をして事故防止をしており、毎月職員会議の中で拘束について検討しています。また玄関の鍵は開いていますが、各ユニットの入り口は施錠されており、外に出掛けたい利用者には声を掛け対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に話し合いやプリントの読み合わせを行い、高齢者虐待について学び、虐待防止に努めている。また、日々の暮らしの中で、かわったことがないか、スタッフ・お客様の様子を良く観察している。		

ニチイケアセンター鶴見今津(マンゴ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時は活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の話をよくきき、こちらからも十分な説明をしている。時間をかけて、今後の打ち合わせをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年に1回「家族会」を開いて、ご意見・ご要望をお聞きしている。また、2ヶ月に1回運営推進会議に、どなたでも参加できるようにしている。お聞きしましたご意見・ご要望は、少しずつでも改善できるよう努めている。	意見が出やすいように事前にアンケートをとり、家族会を年に2回実施しています。出された意見や要望について職員間で話し合い、改善に努め、家族会の中で報告しています。欠席された家族については書面で報告しています。また、運営推進会議や普段の来訪時にも家族の思いを聞く機会としています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議の中で、スタッフの意見を聞いたり、日常の中で個別に聞くこともあります。一人ひとりの意見を大切に、運営に反映できるよう、心がけている。	ホーム長、ユニットリーダーはホーム会議以外でも、必要に応じて随時個別に面談し、問題解決を心がけ、職員が意見を言いやすい環境づくりに配慮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に目標を定め、向上心を維持できるようにしている。3年経過したスタッフには介護福祉士の取得・5年経過したスタッフにはケアマネジャーの取得を推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内に「教育・研修委員」を配置し、毎月ホーム内研修を開催している。また、外部研修の回覧をし、個別に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や交流をして通じて、質の向上をめざしている。ニチイのほほえみは大阪にもたくさんあり、交流をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何にお困りなのか、どうゆうことについて不安なのか、ゆっくり・じっくりと話を傾聴するようにしている。訴えをそのまま受け入れ、信頼関係が築けるよう、心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお困り事を、話しやすい雰囲気でお聞きするようにしている。話にくい内容等は、言葉に隠された内容がないかも注意して、お聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	臨機応変に対応している。本人とご家族様にとって、何が必要か考え、提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの生活者の一員として、支えあう関係を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回、スタッフから家族様へ、近況報告を含めお手紙を送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様やお知り合いの方のご面会は、ご自由にして頂いてる。	以前暮らしていた所の近所の方や、趣味の仲間が会いに来られています。また墓参りに行きたいなど利用者の要望については家族に伝え、個別の外出支援に協力してもらっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や入居者間の関係を理解することで、スタッフ間に入り、かかわりを持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要な方には対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご本人の立場で考え、意向に沿うようにし、沿えない場合も代替等を検討する。	できることややりたいことなどを記入するセンター方式のアセスメント様式を活用し定期的に見直されており、日々の関わりの中で利用者が喜んでいる表情やそうでない事を記録に残し、職員で共有し、家族からも情報を得ながら思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様に生活歴、趣味、嗜好等をお聞きしている。又スタッフ間においても情報を交換している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの様子を観察し又スタッフ間も情報交換しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の要望に配慮して介護計画を作成し、問題点や課題があるときは話し合いを実施しています。	利用者の状態を職員間で話し合い、利用者、家族の希望に沿った介護計画が立てられ、職員間で情報共有に努めながらサービスを提供しています。また、3ヶ月に1回の定期的な見直しの他、状態の変化に伴う計画の変更にも随時行い、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個人ケース記録を記入し、介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族に変化があった場合には多角的に考え柔軟に対応しています。		

ニチイケアセンター鶴見今津(マンゴ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お客様の趣味嗜好を把握し、希望に沿いスーパーや公園等同行利用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては定期往診に来て頂き、要望または必要あればご家族様に立会っていただいています。必要であれば随時Drと連絡をとれる体制にあります。	入居前からの主治医も含め、個々に必要な診療科目の往診に対応しています。医師からの指導や助言をサービスに反映させながら家族と情報を共有しています。また緊急時には24時間、協力医と連絡がとれる体制があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションしほうと医療連携をむすんでいて週に1回来訪頂き健康チェックをしてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医、病院関係者と情報交換を実施し早期退院に向けて取り組んでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族及び主治医と一緒に話し合うようにしています。またスタッフ間でも方針の共有につとめています。	ターミナルケアについては、入居時にホームの指針について説明した上で同意を得ています。ターミナル期になれば医師、家族とその都度話し合いながら取り組む体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは救急法等講習にも積極的に参加し、急変、事故発生時の手順については事務所に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下避難訓練を実施、又地域の消防訓練にも積極的に参加しネットワークを広げている。	消防署立会いのもと夜間想定で1回、事業所独自で1回、年に2回避難訓練を実施しています。また、地域の消防訓練にも積極的に参加し、万が一の非常事態に対応できるよう意識して行なっています。	今後、地域に協力を得る働きかけやホームが地域に役立てる策を検討されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や生活歴を把握し声かけ、介護、記録等プライバシーの配慮には特に心掛けている。	声掛けや対応についてプライバシーの研修を実施しており、トイレ誘導や入浴時の羞恥心への配慮には特に気をつけて支援しています。職員の不適切な声掛けがあった場合には、離れた場所で注意するようにしています。	男性職員が多い事こともあり言葉かけ時の声のトーンや大きさについて定期的に確認し合う事が期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向を重視した対応を常に心掛け納得してもらえるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活ペースに合わせて自己決定、要望を尊重できる支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問理容が来訪し、希望があればカットして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが調理し家庭的なものにしています。また出来る範囲でお手伝いしていただいています。	近所にあるスーパーで職員が買い出し、調理をして提供しており、利用者は盛り付けや後片付けを一緒にしていますが、職員は利用者と同じ食事を食べていません。また、ボランティアによる蕎麦打ちや握り寿司の実演は利用者の楽しみとなっています。	鍋やちらし寿司など職員が利用者と一緒に食事を楽しむ機会がありますが、日々の食事についても一人でも利用者と同じ食事をとる事を検討されてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を日々記録しチェックして変化に応じて医療関係に連絡相談し対応しています。嚥下状態に合わせた食事形態で対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアとして歯磨き誘導や声かけ.入れ歯の洗浄を実施しています。		

ニチイケアセンター鶴見今津(マンゴ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導・おむつ交換、排泄介助時にはプライバシーに特に配慮し、気持ちよく排泄頂く様支援しています。	利用者個々の記録をとり、排泄パターンの把握に努め、こまめにトイレ誘導することでおむつを使用している方が現在いません。職員はプライバシーにも配慮しながら排泄の支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握し時系列にてチェックしバランスをとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望される方は出来るだけ入浴頂ける様に支援しています。	通常は13:30～15:00過ぎまで入浴の支援をしています。希望があれば随時対応しています。毎週木曜日には入浴剤を使用したり季節のゆず湯等イベント風呂を実施し、利用者に喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全個室のため安心して眠れる環境になっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイリングし.情報を共有.症状変化については迅速な医療関係との対応に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味.嗜好に応じた支援(散歩.買い物.庭いじり等)を実施しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム庭、テラス、気候が良い時には、公園等に散歩にでかけています。	天気や気候の良い時には、近所へ散歩に出かけたり、近所の公園にお花見をしたりしています。対応できない場所については、家族に利用者の要望を伝え協力いただき外出支援を行っています。	



ニチイケアセンター鶴見今津(マンゴ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物には同行し、個人のおこづかいより支払い、ご本人・ご家族様に明細をおつたえしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じてご家族様に電話したりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下には季節感のあるディスプレイをし窓は遮光カーテンにより日光を調節している。	リビングにはさりげなく季節の花が生けられ、大きな窓には差し込む日差しを調節するために遮光カーテンを利用しています。廊下には椅子が配置されており、思い思いに過ごせる場所があります。テラスでは外気浴やお茶の時間が楽しめ、対面キッチンからは食事作りの匂いが当たり前の暮らしを演出しており、居心地の良い空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室のためリビングには入居者数以上の椅子を用意し自由に気の合ったもの同士で過ごせます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や寝具等はご家族様と相談し、ご本人様が使い慣れたものを自由にレイアウトして頂いています。	居室にはクローゼットが備え付けられています。マットと布団で休まれる方の布団の横には、立ち上がりやすいように椅子が配置され安全な動線が確保されています。使い慣れたタンスや椅子、大切にされている仏壇や写真、絵などをそれぞれに持ち込まれ、一人ひとりに合った居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は(居室・廊下・トイレ・浴室等)には段差がなトイレは大きく表示、風呂、廊下、リビング、トイレ内に手すりを設置し、夜は足元灯をつける等安全に配慮しています。		